

カサゴ目カジカ科

## アユカケ

青森県：D

環境庁：該当なし



幼魚（全長6cm）

長崎勝康撮影

佐原

体長20cmに達する、特に頭部が大きなカジカしまの仲間。体には4本の縞模様しまが顕著です。えらぶたにとげがあり、「アユカケ」の名はこれでアユを引っ掛けて食うという伝説に由来します。日本固有種で、太平洋側では神奈川以南、日本海側では本県以南で報告があります。河川の中流域で生活し、産卵時には海に降ります。動物食で、小さな個体は水生昆虫などを食べ、大きくなると魚食性になります。

カサゴ目カジカ科

## カジカ(カジカ両側回遊型(小卵型・中卵型))

青森県：D

環境庁：該当なし



佐原雄二撮影

佐原

頭部が大きな底生魚。ハナカジカやカンキョウカジカとは異なり、腹びれには斑紋はんもんがありません。体側には4ないし5つの黒い斑紋を持ちます。カジカは日本固有種で北海道の一部と本州・四国・九州に分布します。主に水生昆虫を食べます。一生を淡水中で送るもの（大卵型）と、孵化ふかした仔魚が海へ降り、再び河川へ戻ってくるもの（小卵型・中卵型）とがあります。本県の多くの河川にはカジカが生息していますが、ほとんどは大卵型と思われるす。

### (3) 無脊椎動物

#### ①昆虫

##### 《概要》

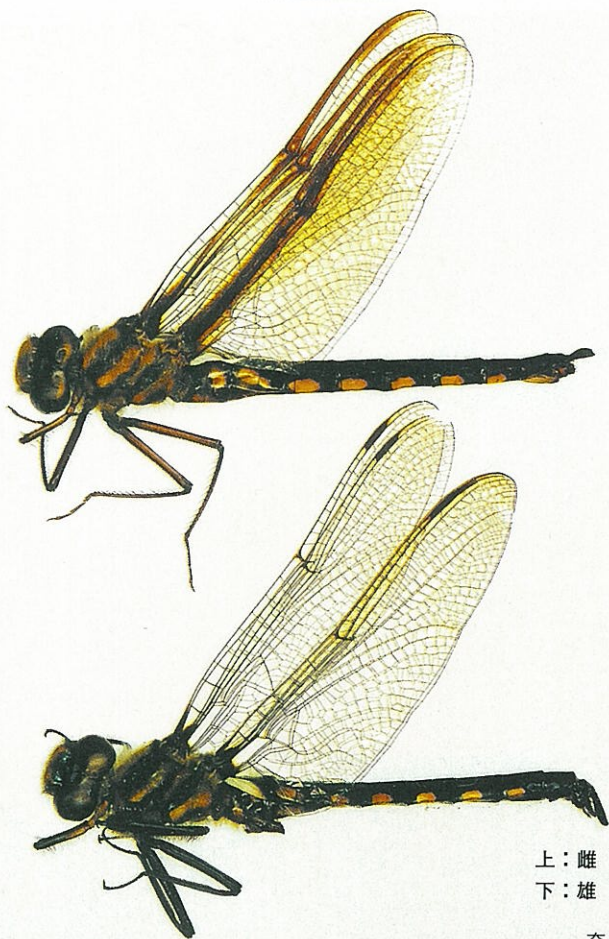
昆虫は、地球上に90万から100万種もいると言われ、一番繁栄している生物です。その体形は頭、胸、腹に分かれていて、頭には一番大事な感覚器官である触覚、複眼、単眼そして口があります。胸部には6本の脚と4枚のはねがあります。腹部には空気の取り入れ口である小さい穴（気門）があります。しかし、これらの器官は種類によって変形したり退化してなくなっているものもあります。体の大きさも1mm以下のものから10cmを越えるものまでいろいろです。昆虫が繁栄した大きな要因は、体の作りを変えながらいろいろな環境で生活してきたことです。餌を取るため空中を飛ぶ昆虫、水中で生活する昆虫、花や葉、木を食べている昆虫、そして地面の中にもいろいろな昆虫が生活の場を持っています。このように昆虫の形や生態はとても変化に富んでいます。

青森県は三方を海に囲まれ、山や湖が多く、自然に恵まれており、昆虫の種類も豊富です。しかし、現在も毎年のように何種類もの生息が新たに確認されるなど、未調査の昆虫群や場所が多く、全体像はまだ不明で調査は不十分です。昆虫は増えすぎて農作物の害虫として嫌われているものもありますが、多くの種類はあまり人目に付かないところで生活しています。県レッドデータブックには、これらの昆虫の中から、生息できる環境が狭くて細々と生きている昆虫や、住み場所が狭められたり、いなくなったりした昆虫をまとめてみました。ただ、県内でも詳しい情報が不十分な昆虫のグループ（カゲロウ、カワゲラ、バッタなど）については検討できませんでした。また、生息の記録が残されていないものや、迷い込んできた可能性のあるもの、標本がなくなって確認できないものなどは除きました。また、隣接する北海道、岩手県、秋田県の情報や、県内外からの研究者の情報も参考にして決めました。この中には本県ではいなくなってしまうと考えられるトンボの仲間のムツアカネとトラフトンボ、チョウの仲間のオオルリシジミの3種類が含まれています。

県レッドデータブックには217種の昆虫をとりあげましたが、今回は、この中から103種を選んで写真で紹介することにしました。

トンボ目エゾトンボ科  
トラフトンボ

青森県：EX  
環境庁：該当なし



上：雌（鹿児島県産）  
下：雄（鹿児島県産）

奈良岡弘治所蔵

体長52～55mmで黒褐色の地に黄褐色斑紋<sup>はんもん</sup>のある中型のトンボです。腹部の黄褐色斑紋<sup>はんもん</sup>は太く短めです。通常、雌のはねの前縁が黒くなっています。本州・四国・九州に分布しますが、東北地方では少なくなります。1937年に青森市から2頭の雄が記録されました。その後には県内での発見はなく、絶滅したものと考えられます。平地の池・沼に生息し、成虫は春早く5月下旬から6月末まで見られます。県内ではよく似た、一回り大きいオオトラフトンボが普通に見られますが、腹部の黄褐色斑紋<sup>はんもん</sup>が細長く、雌のはねの前縁は黒くなりません。

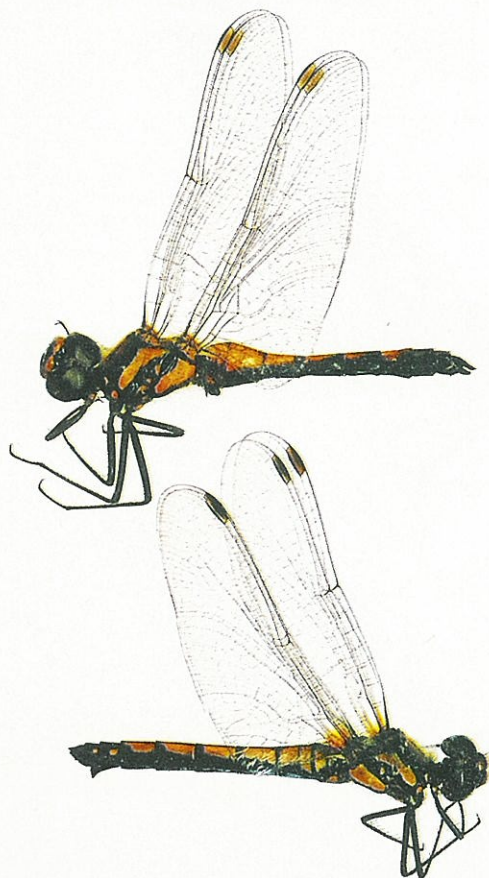
奈良岡

トンボ目 トンボ科

## ムツアカネ

青森県：E X

環境庁：該当なし



上：雄（北海道産）

下：雌（北海道産）

奈良岡弘治所蔵

体長32～37mmの小型のトンボです。赤トンボの仲間ですが、体色は黄褐色の地に黒斑が発達しています。赤くなることはありません。成熟した雄は全体が黒っぽくなります。北方系のトンボで、北海道と岐阜県以北の本州の高地の数か所に発見されていますが、最近、各地で少なくなっています。県内では1940年以前に数個体が発見されていますが、その後に記録がなく、何かの原因で絶滅したものと思われます。八甲田山などの高層湿原に成息していたと考えられます。池沼の湿地や高地の湿原に生息しています。成虫期間は7月下旬から10月初めです。

奈良岡

チョウ目シジミチョウ科  
オオルリシジミ

青森県：E X  
環境庁：絶滅危惧Ⅰ類



昆虫類

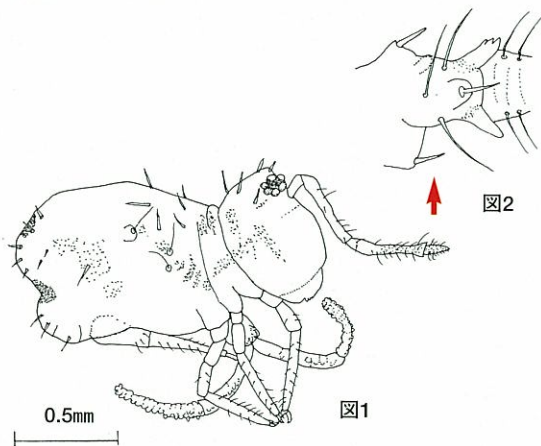
山内博尚撮影

大型のシジミチョウの仲間で、宝石の<sup>るり</sup>瑠璃のように青く輝くはねを持つことからこの名がつけられました。30年位前までは、津軽地方、特に岩木山周辺の草原にはたくさん生息していましたが、今ではまったく見られなくなってしまいました。オオルリシジミが生息していた草原は牛馬用の飼料のための採草地でした。定期的な草刈りが行われ良好な草原が保たれていたのです。近年、牛馬が飼われなくなり、採草地は放置されてススキや低木が生い茂りました。また平坦な場所が多かったことから、開拓や開発が進みました。こうして草原が無くなったことが絶滅の原因と考えられています。

三浦

トビムシ目 マルトビムシ科  
**コシダカマルトビムシ**

青森県：D  
 環境庁：該当なし



須摩靖彦原図

須摩

マルトビムシ科は頭部と胸部からなります。そして、この種は胸部の背部が大きく上に突き出し(図1)、その上触角第3節の先端に大きな指状突起があるのが特徴です(図2)。体長は1.3~1.8mmで、1属1種です。

分布は青森県のみで、本県の平賀町竹館と黒石市青荷の湿った枯れ葉の下と湿った土から採集されたものによって新種と記載されました。最近、むつ市の北国山ブナ林の土壌から採集されました。

トンボ目 イトトンボ科  
**オオセスジイトトンボ**

青森県：C  
 環境庁：絶滅危惧Ⅰ類



雄

奈良岡弘治撮影

奈良岡

体長42~46mmの大きいイトトンボです。若い成虫は黄緑ですが、成熟すると雄は淡い青色となります。胸部前面の黒い部分に黄緑のすじが入っているのが特徴です。国内では関東と東北の一部にしか見られません。県内では木造町屏風山<sup>ひょうぼう</sup>だけに生息しています。成虫期間は6月中旬から8月中旬です。県内各地によく似たセスジイトトンボがいますが、ずっと小さく区別できます。発生地の沼がなくなると絶滅する危険があります。

トンボ目イトトンボ科

## キイトンボ

青森県：B

環境庁：該当なし



雄

奈良岡弘治撮影

奈良岡

体長36～42mmの黄色いイトトンボです。雌には淡い緑色の個体もいます。頭と胸は淡い緑色をしています。雄の第7～10腹節の背面に黒斑があります。本州・四国・九州に分布しています。県内でも1960年頃までは各地の水田・池・沼にごく普通に見られましたが、現在では山間の湿地などの限られた所に発見されるだけです。成虫期間は6月下旬から8月末までです。産卵は雌雄が連結して水生植物の茎などに行います。

トンボ目イトトンボ科

## ルリイトトンボ

青森県：B

環境庁：該当なし



雄

奈良岡弘治撮影

奈良岡

体長33.5～38.5mmで、雄は瑠璃色の地に黒斑をもった美しいイトトンボです。雌は緑色っぽいものと、雄のように瑠璃色のものがあります。北方系のトンボで、本州中部以北の高地と北海道全域に分布しています。県内では低地から高地に発見され、八甲田山・岩木山・恐山・岩崎村などで知られています。しかし、個体数がいちじるしく少なくなっています。池・沼に生息し、成虫は5月下旬から9月中旬まで見られます。

トンボ目イトトンボ科

## モートンイトトンボ

青森県：B

環境庁：該当なし



上：雄、下：雌

奈良岡弘治撮影

奈良岡

体長21～29mmの小さなイトトンボで、雄の腹部の大半が鮮やかな橙色をしています。

雌は羽化後一週間程は橙黄色ですが、成熟するにつれて次第に緑色に変わります。北海道南端から九州までの各地に生息しています。県内では1970年頃までは、水田・池・沼などにごく普通に見られました。その後には少なくなり、現在では限られた地域に生息しているだけです。成虫期間は6月中旬から8月末までです。雌は単独で水面の植物の茎などに産卵します。

トンボ目イトトンボ科

## カラカネイトトンボ

青森県：A

環境庁：準絶滅危惧



雄

奈良岡弘治撮影

奈良岡

体長23.5～30mmの小さなイトトンボで、若い成虫は胸が金属緑色、腹部が赤銅色の非常に美しいトンボです。成熟するにつれて雌は全体が茶褐色となり、雄では胸だけが茶褐色となります。北方系のトンボで、関東以北の一部と北海道に見られます。県内では1970年頃まで各地の湿地に見られましたが、現在では下北郡・上北郡・三沢市・木造町・岩崎村などの数か所に発見されるだけです。成虫は5月下旬から8月末まで見られます。



トンボ目アオイトトンボ科

## コバネアオイトトンボ

青森県：A

環境庁：絶滅危惧Ⅱ類



上：雄、下：雌

奈良岡弘治撮影

奈良岡

体長34～40mmで、体の背面は光沢のある金属緑色をしています。体の腹面は淡い黄色です。本州・四国・九州に分布してありますが、全国的に減少しています。県内でも1960年頃までは各地に広く分布していましたが、現在は岩崎村と六ヶ所村で記録されているだけです。これらの発生地でも個体数がいちじるしく少なくなっています。池・沼・湿地に生息しています。成虫は7月下旬から羽化しはじめ、10月上旬まで見られます。雌雄連結で水上の植物に産卵します。

トンボ目カワトンボ科

## ハグロトンボ

青森県：A

環境庁：該当なし



上：雄、下：雌

奈良岡弘治撮影

奈良岡

体長61～67mmではねの黒いトンボです。頭と胸は黒っぽい金属緑色です。腹部は雄では金属緑色ですが、雌では黒褐色となっています。本州・四国・九州に分布し、平地や丘陵地のゆるやかな流れや池などに生息しています。県内では1960年頃までは各地に普通でしたが、現在はむつ市・岩崎村・六ヶ所村・南郷村など、数か所で見られるだけとなっています。これらの生息地でも個体数がいちじるしく減っています。成虫期間は6月から9月です。

トンボ目カワトンボ科

## ミヤマカワトンボ

青森県：C

環境庁：該当なし



雄

奈良岡弘治撮影

奈良岡

体長65～71mmと日本産カワトンボ中で最も大きく美しい種類です。頭と胸が赤褐色で、腹部は雄では金属緑色、雌では赤褐色です。雄のはねは赤褐色ですが、雌では淡い赤褐色です。雌の後ばねの先端近くに濃色帯があります。北海道から九州にかけて分布し、県内では1980年頃までは各地の山間の清流にたくさんいましたが、現在は少なくなり、山奥でないとなかなか見られなくなっています。

成虫は6月下旬から9月中旬まで見られます。

トンボ目カワトンボ科

## アオハダトンボ

青森県：A

環境庁：該当なし



雄

奈良岡弘治撮影

奈良岡

体長52～56mmの金属緑色の美しいカワトンボです。ハグロトンボに似ていますが、雄の第9、10腹節の腹面が白くなっています。また、はねが雄では金属緑色に輝き、雌では前ばねが淡い褐色、後ばねは濃い褐色です。本州と九州の平地や丘陵地の清流に生息し、1950年頃までは県内でも数か所に見られましたが、現在は三戸郡の一か所に知られるだけです。河川改修などによって絶滅する危険があります。成虫期間は6・7月です。